

緑化だより

No.140 平成30年7月号



ムラサキシキブ

7、8月は月曜日休園。月曜日が祭日の場合は翌日
土・日・祝日は17時まで開園

- 季節の花(ネムノキ)
- 昆虫の話(里山の宝石を捕りに)
- 小さな世界こけ(微小なコケ)
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内



ひろしま 緑化の 森

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp

季節の花

ネムノキ

「昼は咲き 夜は恋ひ寝(ぬ)る合歓(ねぶ)の花 君のみ見めや 戯奴(わけ)さへに見よ」

紀 郎女 万葉集巻8:1461

これを訳しますと

(合歓の花は昼間、綺麗な花を咲かせて夜になればひっそりと葉を合わせている。ネムの葉のようにいだかれて、好きな人に恋いこがれて眠る私です。私だけが、こんな花を見てもいいのでしょうか、あなたも見なさいよ、あなたと一緒に見たいのよ)

この歌は 紀 郎女(きのいらつめ)が大友家持に合歓の枝を切り添えて送ったものです。

ネムノキはマメ科の落葉高木で高さ 10mになります。明るい林縁、河川沿いに生育しています。北海道以外の日本全国に分布しています。

「ネムノキ」という名前は、葉が夜になると自然に閉じて垂れて、木が眠ったようにみえることから付いたと言われます。古名は「ねぶ」と言います。漢名の「合歓」は夜になると2枚の小葉がぴったりと重なり合って閉じて眠ったようにみえることから、すなわち男女の共寝することです。中国では夫婦円満を象徴しています。葉の睡眠運動はオジギソウと同じ原理です。



ネムノキの花

ネムノキは5月の初旬によく新芽をのぞかせます。芽吹きが遅いことから「眠い木」のように見えます。花は梅雨から夏にかけて薄紅色の可憐で綺麗な花が咲きます。夕方に長い雄しべの塊がふわふわと開いて美しい花が開花し、翌朝の午前中には、しぼみます。

松尾芭蕉は「奥の細道」の象潟の旅でネムノキを歌っています。

「象潟(きさかた)や雨に西施(せいし)が ねぶの花」 芭蕉

雨に濡れる象潟の、ネムノキの綺麗で可憐な花と西施(中国の四大美人の一人)の美しさを思い描いた夢のような景色を詠んでいます。7月半ば(旧暦6月15日)の歌です。

ネムノキは梅雨のころ咲く美しい花です。緑化センターの園内でも見られます。(上村)

昆虫の話

里山の宝石を捕りに

太陽の光が降り注ぐこの季節、人々は日差しを避けて涼しい室内に逃げ込みます。

そんなうだるような夏の昼間に活動する代表的な昆虫に「ヤマトタマムシ」の成虫がいます。

昔の言葉で宝石を意味する「玉」を名前に含むように、体全体が緑や赤の輝きを放ち、たいへんきらびやかな体色をしています。その色は、体表面の多層に重なった薄いクチクラに反射した光が、互いに干渉してできる「構造色」です。色素による発色とは違い、紫外線などによって破壊されないため、色を失うことは半永久的にありません。見る角度によって色が異なる不思議な色彩は人々を魅了します。その美しさから宝飾品にも使われ、その中でも法隆寺が所蔵する「玉虫厨子(たまむしのずし)」は国宝に指定されています。現代でも漆塗りの蒔絵細工が作られています。

そんな美しい彼らの生きた姿はめったにみるできません。宝飾品になるぐらいなので、さも希少で山深い場所にいる昆虫なのでしょう。実は、彼らは人里近くに生息する里山の昆虫です。しかも、思っているよりもずっと多くの数が生息しています。

見る機会が少ない原因はその生態にあります。彼らはサクラやエノキなどの梢に集まり、新芽を食べています。そして、木のでっぺんからほとんど降りてこないのです。さらに、彼らが好むのは古く大きな木です。よく茂った枝の中にまぎれた枯れ枝が、産卵するメスを呼ぶのです。高い木のさらに上を飛ぶ彼らを見つける事は普段の生活ではありえないのです。

宝石のような彼らを捕まえたくなるのは人の業。タマムシを取るためだけに作られた10mもの長さの柄を持った虫捕り網が存在します！この虫捕り網は軽いカーボンでできているためとても高価で、わりに折れやすいです。そして、長さのぶん重さもあり、取り回しも最悪です。夏の晴れた暑い日に真上を見上げながら網を振り回しているとクラクラしてきます。うっかりして木に引っ掛かると高価な網が折れてしまいます。

美しいものに熱中するのはほどほどにした方が無難です。
(広島市森林公園こんちゅう館 藤井)



ヤマトタマムシ(吉見氏提供)



柄の長い虫取り網

小さな世界 こけ

微小なコケ

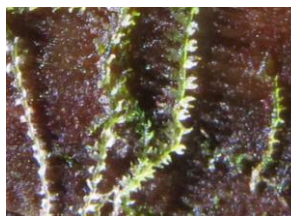
山道を歩いていると、斜面や、樹木の幹、古い切株にも微小なコケが覆っているのを見ることがあります。糸くずのような微小なコケも、ルーペを使ってじっくり観察すると、葉の形の違いや、時期によっては花が咲いているような姿を見ることができます。



ノギリコオイゴケは、日陰の湿り気のある土手などに群落を作っています。一面緑に見えますが、ノギリの刃のような葉の上に、小さな葉が二重についています。



樹木の幹に、赤褐色から緑褐色でカビのように這っているのはカラヤスデゴケです。日当たりの良い場所の幹でも見られ、やや肉厚の卵型の葉が交互についています。



オタルヤバネゴケは、朽ちた倒木や切り株に群落を作ります。5月頃ピンクの花苞をつけ中から孢子体が伸びてきます。淡緑色の葉は卵型で葉の先が切れ込んでいます。(山根)

研修会のご案内

- | | |
|---|--|
| <p>○ 7月 1日(日) 『7月の自然探勝』
梅雨の合間の植物を観察しよう
※ 自由参加・無料</p> | <p>10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：環境カウンセラー、自然観察指導員
和田 秀次</p> |
| <p>○ 7月 8日(日) 『夏のきのこ教室』
梅雨にもたくさんのきのこが・・・
※ 自由参加・無料、採集用カゴ持参</p> | <p>10:00～14:00 第3駐車場 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章</p> |
| <p>○ 7月 16日(月・祝) 『藍のトントン染め』
藍の生葉をトントンたたいてハンカチを染めよう
※ 要予約(先着 20名)・材料費 500円</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：サイエンス インストラクター
山縣 圭子</p> |
| <p>○ 7月 22日(日) 『夏休み昆虫教室』
園内で昆虫を採集しよう
※ 要予約(キャンセル待ち)・無料、採集用具持参</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(環境部門)
亀山 剛</p> |
| <p>○ 7月 29日(日) 『昆虫標本作り入門』
昆虫の標本づくりを学びましょう
※ 要予約(先着 20名)・材料費 1,000円</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：技術士(森林部門)
相良 伊知郎</p> |
| <p>○ 8月 5日(日) 『水生昆虫を探そう』
水の中にはどんな昆虫がいるかな？
※ 要予約(先着 20名)・無料、採集用具・長靴持参</p> | <p>10:00～12:00 第2駐車場 集合
講師：瀬野川水系水生生物研究所
保光 義文
環境カウンセラー(市民部門)
西村 浩美</p> |

◎ 展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

- ・ 陶芸作品展(陶友会) ～7月 25日(水)

(パネル展示)

- ・ 第2回子ども写生大会作品と
緑化センターのコケ写真展 ～7月 8日(日)
- ・ 愛鳥週間原画コンクール入賞作品展 7月 11日(水)～8月 8日(水)



陶芸作品展(陶友会)より

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

- ・ 夏休み自由工作塾 (レストハウス裏庭)

木の実や枝を使って自由に工作しよう

7月 22(日),29(日)日

8月 5(日), 8(水), 19(日), 26(日)日

10:00～15:00 随時受付、材料費 100円

～ 森林公園 イベント情報 ～

- 7月 1日(日) セタメンコで遊ぼう
- 7月 8日(日) パークスポーツをやってみよう
- 7月 16日(月・祝) スイカ割り大会
- 7月 22日(日) 元気顔ガオー森のコンサート
- 7月 29日(日) ひろしま遊学の森子ども写生大会
(森で絵を描こう)



昨年の夏休み自由工作塾より